

37

江戸の街さんぽで上れる お富士さん

「都内七富士、江古田富士から音羽富士へ」(2009年7月)

東京都内には富士山がいくつもある。江戸の昔、八百八講と言われる数の富士講があり、それぞれが人造のミニ富士山を持つていた。遠く富士山に詣でるのは大変なので、女、子どもは地元の富士塚にお参りをしたのだ。それぞれ講には修行を積んだ先達(せんた)がおり、講の男性を代わる代わる本物の富士山に案内した。今でも7月1日の山開きに、富士山麓の浅間神社には山伏姿の先達さんが集まる。静岡側の富士市や山梨側の富士吉田市など登山口にはたくさん

の宿坊が立ち並び、信仰登山の人々で賑わっている。

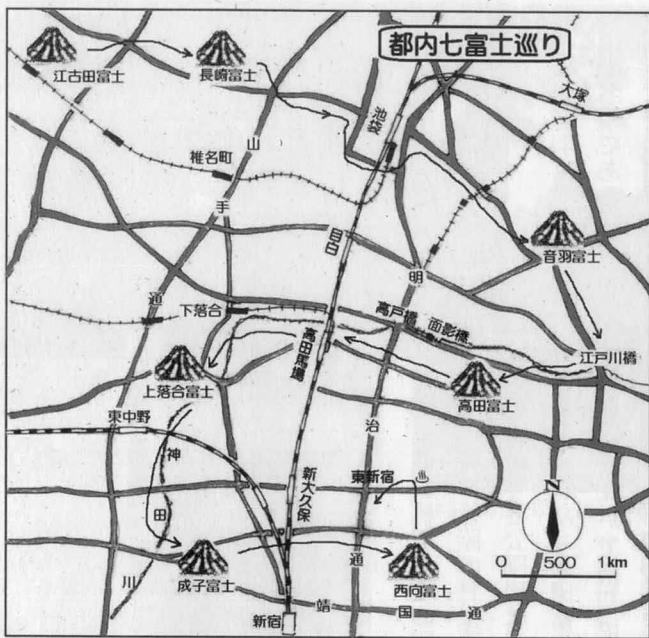
2013年富士山は文化遺産として世界遺産に登録された。ゴミ問題など自然を保全しているとは言えず、「信仰の対象」として登録された。と言うことは、一番の信仰者であった江戸の人たちの功績だったと言える。対象は富士の浅間神社、登山道などで、遠くの三保の松原も「芸術の源泉」として選ばれたが、かなりムリがある。それなら江戸のミニ富士山も「信仰の対象」「芸術の源泉」で登録

してもいいと思うのだが…。

もし江戸の時代に世界遺産があったとしたら江戸の富士塚群として登録されたかもしれない。すごい数の江戸町民が参詣し、浮世絵などの画材にもなったのだから。

都内の富士塚は私が巡っただけで60基ほどが確認できる。そのうち3つは国指定の重要有形文化財だ。

江戸の昔には「七富士巡り」が行われ、それぞれの講の親睦をかねて交流をした。今も山開きの日にいくつかの講で行われている



が、どこを巡るか、それぞれの講で決めているようだ。そこで私流の「七富士巡り」の

コースをつくり、7月1日の山開きの日に走って巡っている。富士山だけでなく日本各地の山はこの

日(山開きの日)が山開きのようだ。

私の七富士巡りコースを紹介しておく。最初は西武池袋線江古田駅前、浅間神社にある「江古田富士」。そこから日大芸術学部前を通り、千川駅を越えた左側に富士



江古田富士 山開き

神社前のバス停がある。ここには「長崎富士」がある。この二つは国指定の重要有形民俗文化財であり、ふだんは登ることはできない。そこから池袋駅のびつくりガードをくぐり、雑司ヶ谷墓地を抜けて護国寺に向かう。護国寺の石段



音羽富士。護国寺内にある。

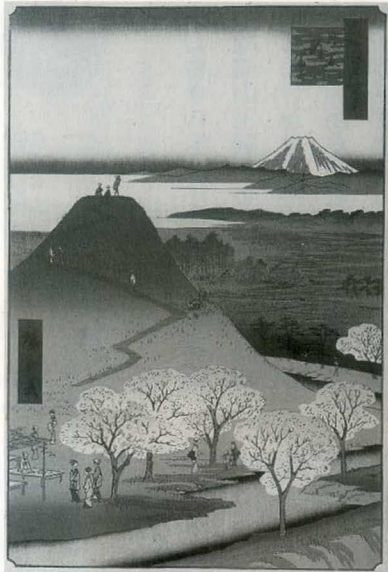
の下に「音羽富士」がある。神仏混淆の名残である。音羽富士は登山可能。登山道、合目石もちゃんと付いている。登頂には2分ぐらしかかる。音羽通りから江戸川公園をぬけ神田川の遊歩道に入る。



長崎富士の富士講の碑

面影橋で都電の駅を越えて、水稲荷神社脇の甘泉園に入る。登っていくと公園にはそぐわない堀に囲まれた「高田富士」がある。これは江戸で最初に造られた富士塚だ。昭和38年までは早稲田大学構内にあつたが商学部校舎建設の際にここに移築された。また神田川に戻り、高戸橋で明

治通を越え、新目白通りを下落合の駅まで行く。線路を越える道が八幡通りで、公園上方の月見岡八幡境内にある幼稚園の奥に小さな「落合富士」がある。園児に不審者と思われないよう、声をかけてからお参りしよう。1分で登頂できる。八幡通りから小滝橋に出て、「神田川」の歌碑をみて青梅街道に出る。この道を新宿方面に登っていくと左手に成子天神の鳥居が見える。この境内に立派な「成子富士」がある。頂上には真つ白な木花咲耶姫の立像がある(2015年にはなくなった)。神社の裏手に出ると新装なった旧職安通りである。山手線のガードをくぐると左手は韓国料理街、



広重の「目黒新富士」(今はない)

が、オリエンテーリング風ランニングなので4時間ぐらいかかる。新宿駅に戻るときには花園神社の「新宿富士」を通ることもある。花園神社にも藤圭子



成子天神の富士塚、上に木花咲耶姫の像(今はない)

明治通を越え右に入ると新宿文化センター。その背後の斜面に西向天神の「東大久保富士」がある。境内には藤圭子の「新宿の女」の歌碑がある。富士塚とは関係ないかな!

の歌碑がある。通常は西向天神の前の道を登って市杵島姫の「抜弁天」に出て、久左衛門坂を下り、東宝湯の漢方の湯で疲れをとる。東宝湯から大江戸線東新宿駅まですぐだ。



富士山山開き 7月1日富士吉田北口浅間神社